

## 40日の祈り



全日本18マラナ・タの収穫の講演会まで、あと1か月余りとなり

ました。私たちは、これまで近隣の方々との関係を作り、地域へのさまざまな働きかけをし、講演会の日程を決め、会場を決め、講師を決め、奉仕の役割を決め、この収穫の講演会に向けて準備をしてきました。収穫の講演会が目前に迫ったこの時期に、「40日の祈り」をお勧めします。

なぜ40日間祈るのでしょうか。

いのちのことは社の『新聖書辞典』によれば、40という数は、神の救いのわざの歴史における新しい展開に関連して用いられる数字であると言われています。ノアの洪水

のときに降り続いた雨の40日間は、古い世界と新しい世界を分ける期間で、ノアと家族は箱舟に入って

救われました。また、イエスの40日間の荒野での試みの期間は、イエスがそれまでの生活から、人々の救いのために公生涯に移るための期間でした。そのようなことを考えるときに、今、私たちが40日間祈りの日々を過ごすことは、とても意味のあることだと言えるのではないのでしょうか。この「40日の祈り」を境に、それぞれの教会の歴史における新しい時代が来ようとしていると言えるのかもしれませんが。

今月号では、昨年、組織的かつ

継続的祈りをして講演会を行ない、新しい展開を経験した3つの教会の証をご紹介します。思います。

続いて、昨年フィールドスクールで提案された「40日の祈り」を全日本18マラナ・タ用にアレンジしてご紹介いたします。なお、本誌巻末には、「40日の祈り」のカレンダーを掲載しています。それぞれの教会で「40日の祈り」に取り組む際の助けにしてください。

組織的継続的に祈ってみました①  
**鹿児島教会**

昨年6月、鹿児島教会では全日本18マラナ・タへの布石として3

日間の特別講演会を企画実行しました。

目標来会者数は3日間で600名。1日平均200名という、数値だけ見るとかなり無謀とも言えるものでした。これまでの講演会来会者は多くても50名程度でしたので約4倍の数値を求めたのです。なぜこのような数値目標を立てたのか、理由はひとつ「全日本18が収穫講演会ならば、2017年は種を蒔こう！」と神様のことを一人でも多くの方に伝えたい、教会に足を運んでもらいたいという思いです。この思いを胸に信伝会が中心となり、講演会へ向けて動き始めました。設定目標が高すぎる

が故に私たち人間のなしうる範疇を超えているため、神様の、そして聖霊の働きがなければならぬ。そのためには、祈りのテーマに「特別講演会」をあげ、事あるごとに、個人で、小グループの祈りの組で、祈祷会などいろいろなところで祈ってきました。4月からは教会員が一九となり24時間の祈りのリレー「祈りの環」に取り組みました。講演会まで6週となった時、礼拝後、登壇した長老さんに講演会のための特別な祈りをささげてもらい、礼拝出席者全員で祈りました。結果として神様から与えられたものは、来会者633名（うち未信者369名）という数値目標の達成だけではなく、教会員一人ひとりが感じた「霊的な満ちし」「えも言われぬ幸福感」「教会員の一致」でした。そして、「祈りが聞かれる」ことを目の当たりにしたのです。このことは教会員の大きな励みと喜びとなりました。

2017年の鹿児島教会のテーマは「家族そろって主のもとへ」でした。

この1年間、家族伝道のために祈り、バプテスマが与えられるよう祈ってきました。2017年の「祈りの行進」を行なったそうです。天沼教会ではこのように祈ることを通して私たちの信頼を神様に置くことができました。私たちは祈りによって状況を変えたいと望んでいましたが、神様は祈りを通して私たちの心を変えてくださいました。

聖書は私たちに「何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いを、キリスト・イエスにあつて守るのであるう」（ペリピ人への手紙4章6、7節、口語訳）と約束しています。

天沼教会が講演会の前に組織的な祈りをしていなかったのであれば、私たちはたとえ10名のバプテスマという同じ結果が与えられた

バプテスマ数は13名でした。その中には子どもや孫から学びを進められた方、親子で同時に受けられた方2組、三育小学校を卒業し大人になって戻って来られた方、先に受けられた親御さんの姿を見て決心された方など、「家族そろって主のもとへ」行けるよう主が整えてくださいました。主は私たちの祈りに応えてくださったのです。

今年、全日本18マラナ・タはいよいよ収穫の時です。2016年から発足したゴスペル教室でも「キリストへの道」の学びが始まったと同時に、通信講座受講生が15名与えられています。種が少しずつ芽吹き始めました。今年の初企画として「カウントダウン祈祷会」が2017年の大晦日の23時半から2018年元日の朝5時までもたれました。9名の参加があり、証をしたり祈ったりしました。

全日本18マラナ・タの10日間講演会に向けて、神様からの追い風を感じています。そして私たち一人ひとりの中に神様のご臨在を感じています。収穫に向けてさらに一致した祈りをささげ、今まで経験したことのない喜びを、そして幻を見せていただきましたという希望にあふれています。「祈りのちか

としても、神様に感謝することはなく、信仰がさらに強められることはなかったでしょう。教会が心を合わせて祈ることによって、伝道は神がなさるわざであることを認め、私たちはただその命令に従うことができました。

今年も「全日本18マラナ・タ」の準備として、祈りは天沼教会の最優先課題となっています。祈ることに失敗すると、失敗を計画することと同じだと思っています。祈ることによってもっと神様を信頼して前進していきたいと願っています。

## 組織的・継続的に祈ってみました③

木更津（岩根・小糸集会所含む）教会は、全日本18マラナ・タの種まき講演会として、昨年11月10、11日に連続講演会を行いました。金曜日の19時～20時30分、土曜日10時30分～12時、13時30分～15時の3回です。

教会員に高齢者が多かったため、安息日礼拝時も、講演会礼拝の形を取りました。特に工夫したのは、2回目と3回目の講演会の間に昼食をはさむため、招待者が帰らず

ら」をさらに感じさせていただけよう、祈り求めます。

## 組織的・継続的に祈ってみました②

昨年天沼教会では3週間にわたる収穫の伝道講演会を10月に計画していました。天沼教会ではこの年、フィールドスクールを実施し、たくさんの方の時間、資金、努力を費やしたので、教会員は皆この講演会をなんとか実りあるものにしたと願っていました。しかし、10月が近づいてくるにつれて私たちの教会の中には不安が高まってきました。講演会への期待が高いことから、もっと完璧に準備をしたかったのです。ところが、私たちが期待している通りには準備が進まず、不安と不満の声が出るようになりました。

自分たちの力ではどうすることもできないこの状況を変えることができないことを素直に認め、この状況を変えることがおできになる方に力を求めて祈らなければならぬと思うようになり、「40日間の早天祈祷会」が始まりました。

「40日間の早天祈祷会」は8月27日から講演会が始まる直前の10日間に参加できるように、軽食（コンビニのおにぎり2個と麦茶）を準備したことです。これは功を奏しました。

講演会の5か月前くらいから本格的に計画を明瞭化して、3か月前からトラクト配布と祈りのチェインを実施しました。トラクトの総配布数は2万6千部でした。招待する未信者のお客様の目標は講演会ごとに50名にしました。その目安は木更津教会員の礼拝平均出席者50名に因み、1人が1人を導くという教団目標を参考にしました。また、教会員全員が意識と責任を持つるように、24時間祈りのチェインを実施しました。「1時間のうち1分でも30秒でも構いません。1日最低24回、1時間ごとに誰かがこのために祈っている状態を講演会まで持続させて、神様のみ業を全員が体験しましょう。どうぞ、この24時間祈り分担当に名前を記入してください」と幾度か訴えました。結果として37名が参加していただきました。真夜中の祈りを担当する人が心配でしたが本当によく協力いただきました。のちにある方が、「これほど真剣に祈ったことはありませんでした。とても充実した日々でした」と言

月5日まで行なわれました。毎朝6時半から7時まで教会堂に集まり、まずは賛美歌を歌い、使徒行伝の1章から20章までを毎日1章ずつ交読しました。牧師がその日読んだみ言葉に基づいて短いメッセージを語り、聖書のメッセージに励まされて祈りました。聖霊を求めて、個人の信仰のリバイバルのために、教会と機関のために、講演会のために、また求道者の名前を挙げて祈りました。

この祈祷会を始めた頃は10人前後の信徒が集まりましたが、祈りの喜びを体験した信徒の証によって一人二人と増えていきました。40日が終わる頃には、平均20人弱の信徒が集まるようになりました。40日の期間中の最後の日曜日の朝に行なった特別祈祷会には60人ほどの信徒が集まり、共に祈ることのすばらしさを味わうことができました。

この40日間の早天祈祷会に参加した信徒たちは口を揃えて、伝道の働きにもっと献身したいと話していました。ある方は神様に祈りによって今の自分と教会の状況を変えたいと願っていたけれど、神様は自分の心を変えてくださったと告白していました。

わたしたときは感激しました。教会員に強い関心を持っていたとき、喜んで隣人やご家族をお誘いしていただけるように、知名度の高いジョン・ルーカス氏のゴスペルコンサートを島田真澄先生の講演会にコラボしました。入場は無料ですが、付加価値と参加者の関心度を高くするために、入場整理券を作り、これを事前に入手していただくようにご案内しました。

また、講演会の最後に毎回アンケートを実施し、感想と聖書研究希望、ゴスペルを習いたいなどの意志表示をしていただきました。結果として、平均53名の未信者が参加され、そのうち聖書研究20名、ゴスペルクラブ18名の希望者がありました。3回の講演会に参加された未信者の総数は90名でした。まさしく祈りが成就しました。うれしいことに、2名が12月23日にバプテスマを受けられました。あと残りの方々をマラナ・タ連続講演会までつなぎ留めたいと切に願っています。

尚、このアイデアは、同6月に実施された鹿児島教会での講演会から得ました。森牧師と鹿児島教会の皆様、ご協力を心より感謝申し上げます。



# 40日の祈り

一緒に、毎日続ける

実施期間：3月25日(日)～5月3日(木)

## 一緒に、毎日続ける

「40日の祈り」で一番大切なのは、一緒に祈るということです。神さまは、もし私たちが一緒に祈るために時間を取るならば、祝福しただけだと約束してくださっています。

### 毎日の祈り

教会が一緒になって祈るだけでなく、それを毎日40日間続けるということが大切です。毎日同じ形でもなくてもよいので、どうかして一緒に祈ることができるように工夫しましょう。

(例) 教会員全体で教会で祈る日を土、水、金曜日の夜などと決め、日曜日はAさんの家とBさんの家に分かれて祈る。月曜日はグループで祈りの行進をする。火、木曜日は街のどこかで会う。

### 祈りの焦点

- ① 聖霊の雨が豊かに降り注ぎ、多くの方々がキリストを受け入れる決心ができるように。
- ② 「執り成しの祈りリスト」に載っている方々のために。具体的に名前をあげてお祈りしましょう。
- ③ 現在、聖書研究をしている方々のために。
- ④ 5月に行なわれる伝道講演会の準備のために。

- ⑤ 講師のために。
- ⑥ 牧師のために。
- ⑦ 教会員全員が協力して講演会の準備ができるように。
- ⑧ 講演会準備委員のために。
- ⑨ プレ講演会を行なう場合はそのために。
- ⑩ 病院、福祉施設など、教会の機関の働き人の中でまだ教会員ではない人、またその方の家族のためにも、特別にお祈りしましょう。

### 聖書の約束

歴代誌下16章9節、詩編116編1、2節、143章8節、イザヤ書65章24節、エレミヤ書33章2、3節、ミカ書7章18、19節、マタイによる福音書9章35～38節、18章20節、マルコによる福音書11章24節、ルカによる福音書11章9～13節、18章1～8節、ヨハネによる福音書4章35～38節、15章7節、16章23、24節、コリントの信徒への手紙二・10章4、5節、エフェソの信徒への手紙3章14～21節、テモテへの手紙一・2章8節、ヨハネの手紙一・5章14～16節、ヨハネの黙示録22章12節

## 提案 40日の祈り

実施期間：3月25日(日)～5月3日(木)

5月に行なわれる10日間の講演会を、今年には実施しない教会もぜひチャレンジしてください。

### その他の提案

① 本誌巻末のカレンダーを使う  
本誌巻末に「40日の祈り」のカレンダーを掲載しています。聖句や祈りのテーマを用いて、毎日祈ってみましょう。

② カンファレンスコール(電話会議)を使う  
大都市に住んでいる人たちにとって、毎日集まって祈るのは大変なことです。電話を使って祈ることもできます。40日の間、電話会議用の電話番号を持つこともできるかもしれません。この場合は牧師がリーダーとなり、1、2人の助手を決めて進めるとよいでしょう。最初の日は、何時に電話をするのかを決めます。教会員は毎日決められた同じ時間に電話し、名前と祈りの課題をあげて神さまが関わって

くださるよう祈り求めます。スマホ、タブレット、パソコンを使って複数の人と話せる方法もありますので、それを使ってもいいでしょう。

③ 使徒言行録を読む  
新約聖書の使徒言行録は28章あります。最初の20章を20日で読みます。それから、もう一度繰り返して、最初の20章を残りの20日で読むようにしてください。その日読んだ章が、その日の祈りに反映するようにします。

(例) 使徒言行録12章を読んだとき、  
a 刑務所に入っている人について祈ってください。  
b 教会が祈りの教会になるように祈ってください。  
c サタンの拘束から人々が解放されるように祈ってください。  
d 求道者の生活に神さまが関わってください、サタンの働きがうまく進まないように祈ってください。

「聖霊の約束は、教会が一致して祈るときに与えられる。そしてその祈りの答えは個人で祈るよりもはるかに力強いものが期待される」(エレン・ホワイト)

### なぜ40日?

#### 40

40という数字は、聖書では準備の期間、新しい人生転換のときという意味があります。  
★イエスは公生涯の前に、40日の断食をした。  
★ノアの洪水では、40日雨が降り続いた。  
★モーセはシナイ山で主から40日目十戒を授かった。

#### ④ 毎日の祈りの行進

普段行なっている祈りの行進とは異なり、週に2、3日ではなくて、がんばって40日間継続して行なってみましょう。聖書の約束を携帯し、近隣の人々のためだけでなく、教会の特定の求道者の友人のために祈りましょう。

本稿は、2017年フィールドスクール資料(ロン・クルーゼ博士)を全日本18マラナ・夕用にアレンジしたものです。